
■ JXホールディングス(5020) 2011年度第4四半期決算 アナリスト説明会 Q&A

1. 日時 : 5月11日(金)15:15-16:45
 2. 出席者数 : 161名
 3. 主な質疑内容:
-

－ 本資料には、将来見通しに関する記述が含まれています。巻末に注意事項を記載しています。－

Q. 石油精製販売事業の2010年度と2011年度の比較において、マージン他で980億円の減益があるが、この内容は。

A. 白油・輸出・ナフサのマージン低下の他、原油価格の上昇に売値の連動しない製品の影響、製油所のトラブル影響などが含まれている。

Q. 石油開発事業において、2012年度見通しの中で経費他で約140億円の悪化要因があるが、この内容は。

A. この中には既存油田の生産維持拡大のための投資・補修費の増や、新規の探鉱開発活動拡大に伴う探鉱費の増が含まれている。

Q. 開発中のカセロネス鉱山の進捗状況は。業績へ貢献してくるのはいつからか。

A. カセロネスの開発は順調であり、おおむね60%程度まで進捗している。2013年1月からS×E Wの電気銅が生産開始、2013年9月より銅精鉱が生産開始となる予定。収益への貢献は2013年から始まるが、数量の多い銅精鉱の生産開始が同年9月からであり、フルで効いてくるのは2014年度からとなろう。

Q. 電材の足元の状況について教えてほしい。

A. 2011年度はおしなべて2010年度比で減販となった。ただしこの1-3月が底だろうという感触を持っている。完全に復調したというわけではないが、下期にはある程度戻るとみている。

Q. 統合シナジーについて、当初目標の1,090億円から1,150億円へ上乗せしているが、次期中計においても、一定の合理化、効率化は期待しているのか。

A. 2013年度以降のコスト削減については次期中計の中で検討していくこととなるが、さらなる効率化を図っていきたいと考えている。どういったものが出てくるかは現場を含め今後考えていく必要があるが、追加の20万B/Dの能力削減による、効率化を含めながら、今後検討を進めていく。

Q. 次期中計の考え方を可能な範囲で教えてほしい。

A. 正式には来年今頃の発表になるが、次期中計においても、企業価値の最大化に向けた投資戦略が大きな課題となろう。石油精製販売ではパラキシレン・潤滑油・石炭、石油開発では成果の出た探鉱案件、金属事業ではケチュア銅鉱山などの各プロジェクトで、次期中計でも継続して取り組

んでいく必要がある。またこれ以外の新規案件にも、最も有利なものから優先していくというスタンスに変更なく経営資源を配分していく。

以 上

本資料には、将来見通しに関する記述が含まれていますが、実際の結果は、様々な要因により、これらの記述と大きく異なる可能性があります。かかる要因としては、

- (1) マクロ経済の状況またはエネルギー・資源・素材業界における競争環境の変化
- (2) 法律の改正や規制の強化、
- (3) 訴訟等のリスク など

が含まれますが、これらに限定されるものではありません。